



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リアンレーヴ札幌八軒	階数	地上5階建て
建設地	札幌市西区八軒7条東5丁目765-4、-20、-77、-78、-79、-100	構造	RC造
建物用途	病院	平均居住人員	130人
竣工年	令和7年1月 予定	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
敷地面積	1,528 m <sup>2</sup>	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	890 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2024年2月26日
延床面積	3,310 m <sup>2</sup>	作成者	
		確認日	2024年2月27日
		確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★ **B+**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

\*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.75**

ZEB/ZEH-Mランク **非該当**

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項	
<p><b>総合</b></p> <p>平面形状をシンプルにし、できるだけ周囲への圧迫感を抑えるようにした</p>	<p><b>A 省エネルギー</b></p> <p>効率の良い設備機器などを使用し、省エネルギー性能を高めるよう配慮した</p>
<p><b>B 省資源等</b></p> <p>ほぼ全体にLED照明を設ける、節水型器具などを使用する等をし、可能な限り環境負荷の軽減に務めた</p>	<p><b>C 緑化</b></p> <p>できるだけ緑地を設け、周囲や利用者への環境づくりに配慮した</p>
	<p><b>D 雪処理</b></p> <p>エントランスと駐車場にはロードヒーティングを敷設し、利用者の円滑な利用と除排雪の軽減に配慮した</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(一財)住宅・建築SDGs推進センターのCASBEE認証	-	BELS認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用	-	LEED認証	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■環境品質Q=25×(Qのスコア-1)、環境負荷L=25×(5-LRのスコア)より算出

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体				
配慮項目	重点評価項目			評価点	重み係数	評価点	重み係数									
<b>Q 建築物の環境品質</b>												<b>2.8</b>				
<b>Q1 室内環境</b>												<b>3.1</b>				
<b>1 音環境</b>												<b>2.5</b>				
1.1 室内騒音レベル												3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音												3.0	0.40	2.6	0.40	
1 開口部遮音性能												3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能												3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													-	2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													-	2.0	0.20	
1.3 吸音												1.0	0.20	1.0	0.20	
<b>2 温熱環境</b>												<b>3.0</b>	<b>0.35</b>	<b>3.0</b>	<b>1.00</b>	<b>3.0</b>
2.1 室温制御												3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温												3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能												3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性												3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御												3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式												3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>												<b>2.6</b>	<b>0.25</b>	<b>3.3</b>	<b>1.00</b>	<b>3.0</b>
3.1 屋光利用												1.8	0.30	4.2	0.30	
1 屋光率												1.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口													-		-	
3 屋光利用設備												3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策												3.0	0.30	3.0	0.30	
1 屋光制御												3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度												3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御												3.0	0.25	3.0	0.25	
<b>4 空気質環境</b>												<b>4.1</b>	<b>0.25</b>	<b>4.0</b>	<b>1.00</b>	<b>4.0</b>
4.1 発生源対策												5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質												5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気												2.0	0.30	2.3	0.38	
1 換気量												3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能													-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮												1.0	0.50	1.0	0.33	

4.3 運用管理				5.0	0.20		-	
1	CO <sub>2</sub> の監視		-		-		-	
2	喫煙の制御		敷地内及び建物全体を禁煙にしている	5.0	1.00		-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.7
1 機能性				3.0	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	3.0	0.60	
1	広さ・収納性		-		-	3.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応		-		-		-	
3	バリアフリー計画		-		-		-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.50	3.0	0.40	
1	広さ感・景観		-		-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース		-		-		-	
3	内装計画		-	3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.50		-	
1	維持管理に配慮した設計		-	3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		-	3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		-	3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	-	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	期待耐用年数が長い内装材を選定している	5.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	期待耐用年数が長い管材を選定している	4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性				2.2	0.20		-	
1	空調・換気設備		-	3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		-	2.0	0.20		-	
3	電気設備		-	3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		-	1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		-	2.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				2.6	0.30	2.2	1.00	2.4
3.1 空間のゆとり				1.8	0.30	1.4	0.50	
1	階高のゆとり		-	1.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	3.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	0.50	

3.3 設備の更新性				3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		-	3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		-	3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		-	3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		-	3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30		-	2.3
1	生物環境の保全と創出	緑化	-	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	緑化	-	2.0	0.40		-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	-	3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	-	3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性								3.2
LR1 エネルギー				-	0.40		-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI= 0.70 品確法=	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用	省エネ	-	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	省エネ	BEI= 0.75	4.0	0.50		-	4.0
4	効率的運用			2.0	0.20		-	2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	省エネ	-	3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	省エネ	-	1.0	0.50		-	
集合住宅の評価								
4.1	モニタリング	省エネ	-					
4.2	運用管理体制	省エネ	-					
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	2.7
1	水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1	節水		-	3.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-	2.6
2.1	材料使用量の削減	省資源	-	2.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源	-	2.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	乾式間仕切壁、断熱材のウレタン吹付、OAフロア等、分別が比較的容易である	4.0	0.20		-	

<b>3</b>	<b>汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	<b>3.0</b>	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70		-	
	1 消火剤	省資源	-	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	省資源	-	3.0	1.00		-	
	3 冷媒	省資源	-	-	-		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					<b>0.30</b>		-	<b>3.1</b>
<b>1</b>	<b>地球温暖化への配慮</b>	省資源	-	<b>3.8</b>	0.33		-	<b>3.8</b>
<b>2</b>	<b>地域環境への配慮</b>			<b>2.5</b>	0.33		-	<b>2.5</b>
	2.1 大気汚染防止	省資源	-	<b>3.0</b>	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 雪処理	-	<b>2.0</b>	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制		-	2.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	ゴミ庫は十分な大きさを確保している	4.0	0.25		-	
<b>3</b>	<b>周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33		-	<b>3.2</b>
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-		-	
	1 騒音		-	-	-		-	
	2 振動		-	-	-		-	
	3 悪臭		-	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.67		-	
	1 風害の抑制		-	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制		-		-		-	
	3 日照阻害の抑制		-	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.33		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		公告物照明を使う予定無し	4.0	0.70		-	
	2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)リアンレーヴ札幌八軒	BEE	1.0	BEEランク	B+
建物用途	病院				
延床面積	3,310.4 m <sup>2</sup>				

## 2 重点項目への取り組み

## レーダーチャート



## 3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー ( 最高点 28.0 最低点 7.9 )		合計 19.8点 /28.0点	
Q1 温熱環境	スコア 1.7 /2.7	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア 3.3 /5.3	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.2 /2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 8.0 /10.0
		LR1 効率的運用	スコア 1.6 /4.0
B 省資源等 ( 最高点 23.9 最低点 7.5 )		合計 14.1点 /23.9点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.7 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 4.7 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.3 /2.1
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.8 /5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.2 /4.4
C 緑化 ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )		合計 6.6点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.8 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 2.4 /6.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 /2.3		
D 雪処理 ( 最高点 3.0 最低点 0 )		合計 2.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数